

# マヤ暦

## 大谷中学校 14歳の挑戦

この記事は14歳の挑戦の一環として大谷中学校の生徒が取材をして、記事を書きました。



# 宇宙と歴史のつながり

十四歳の挑戦五回目。  
私達は、藤田小百合さんに『コズミック・ダイアリー(マヤ暦)』についてお話をお聞きしました。

最初に私達は、藤田さんに「カレンダーとは？」と質問されました。普段なにげに使用しているものなので何かと聞かれると難しく答えることが出来ませんでした。お話を聞いて分かったことがあります。

- ・ 地球の一年は、三六五日
- ・ 月の一年は、三五四日
- ・ 太陽暦とは、地球のこうてん周期
- ・ 太陰暦とは、旧暦・月の満ち欠けの周期であり、一日は必ず新月になり、十五日は必ず満月になる
- ・ 新月の日は木も眠っている
- ・ 地球は、太陽の周りをまわっていて、地球が太陽の周りをまわることによって、その太陽の光と熱とエネルギーの変化によって、土の中の微生物から、虫、草木、魚、動物、山海、空まで、地球のすべての生命が、有機的秩序の中でダイナミックに変化しているのを「観る」ことが出来る

に、宇宙と歴史が繋がっているんだなということも分かりました。



睡眠についてもお話をしてもらいました。睡眠時間で大切なことは、何時間も寝ることよりも、「何時に寝て何時に起きるかが大切だ」と言われとても勉強になりました。

藤田さんに「働くとは何ですか？」と質問しました。「人間が人間だけの都合で働かないこと。人間だけが楽をするのではなく、自然や環境のことも考えなければならぬ。」

『働く』ということをいろいろな意味で捉えている人がいるということが分かりました。月と地球の日がずれているため、太陽太陰暦を出し、三年に一度一月足して調整しなければなりません。最近では、一年を十三ヶ月の暦へしようとい八十九国で運動が行われています。

2012年に世界人口が七十億人に到達しましたが、コーエン教授の試算では、地球上で約五十億人しか暮らせないそうです。しかし、自分たちの生き方によって人の生活は大きく変化するということが分かりました。

私達は、滅多に学べないマヤ文明のお話について学ぶことが出来たのでよかったです。

### ■藤田小百合

自らの病氣を通して人は衣食住すべての関わりの中にあると痛感したのをきっかけに、「自然時間」に生きることで本来の魅力や才能がさらに輝くことを体感。宇宙のリズムを刻んだ28日周期13か月の暦を使いながら、「ココロ」から、社会全体を本来の姿に戻すセルフケアと新しい時代の新しい生き方を提案中。美しいハレ時間を綴る「ハレ暦」を作成。

